



2013.7.7 Women'sHealthForum2013

TKP お茶の水カンファレンスセンター2F

ニコライ堂を横に見て、梅雨明け猛暑の中 会場へ

女性の健康支援のための NPO 法人 HAP の平成 25 年度総会が開催された。

現在会員数 111 名(個人 104 名、法人 7 団体)。

総会の出席者は 21 名。委任状 53 名。

平成 24 年度の活動報告、決算報告と、平成 25 年度の活動計画と予算案が議決された。また、HAP の組織変更についての趣旨説明と提案があり、議決された。

新体制について詳しくは、HAP の HP を参照していただきたい。

① アジア太平洋閉経学会(APMF)最新情報



麻生 武志 先生

平成 25 年度総会終了後、ミニシンポジウムが開催された。

平成 25 年 10 月 18 日～20 日 京王プラザホテルで開催される第 5 回 APMF の最新情報が麻生先生から報告された。その中で、欧米とアジアにおける乳がんの発症率についての話が印象的だった。アジアにおける乳がんの頻度は、欧米に比べて相対的に低いものの、死亡率が上昇しているという。45～50 歳代に発症のピークがあるので、それまでに積極的に検診を薦めたい。

② 女性医学の最新のトピックス



高松 潔 先生

高松先生からのトピックスの中でのキーワードを拾ってみる。

「CVD: 自然閉経より外科的閉経によるリスクが高い」

「子宮摘出が必要な手術の場合、卵巣を残した方がその後の死亡率が低い。65 歳までは卵巣を残そう」

「子宮内膜症の人は早く閉経する」

「BRCA 変異陽性の女性は閉経が早い」

「妊娠は女性の一生におけるストレステスト」

「閉経は人生におけるチェックポイント～自分のメンテナンスを心掛けよう」

③ 高齢不妊、高齢妊娠、出生前診断を考える 遺伝カウンセリングの現場から考える日本の課題



田村 智英子 先生

遺伝カウンセリングの認定を受けている人は、国内に 139 名。

今回、初めてだったこともあり、その内容はとても印象に残った。その中でも、「日本では、条件にあてはまる妊婦が等しく出生前検査の選択肢にアクセスできる権利や出生前検査やその結果による中絶を自己決定する権利は必ずしも保証されていない。このことはどうしたらよいか」と問題提起された。「安易に出生前検査をして中絶するよりも、産んで育てる選択を推奨する風潮が日本にはある。」

どの話も新鮮で、機会があればもっとお話を聴きたいと思った。

④ 一般社団法人 日本骨粗鬆症学会の最近の取り組み 行動変容につながる普及・啓発を目指して



太田 博明 先生

⑤ 地域の現状と女性の健康支援

宮原 富士子 先生

宮原先生は、平成 24 年度 各地で開催された Meet The HAP 11 回。参加人数 135 名。女性のための健康出前講座 35 回。参加人数 1794 名の講師として全国を駆け回った。保険薬局薬剤師としての在宅を含む日常業務。さらに学会発表など常にパワフルに活動されており、頭が下がる思いである。